

各 位

平成 1 4 年 3 月期第 3 四半期の業績等の概況



上場会社名 オリコン・グローバルエンタテインメント株式会社
 (コード番号: 4800)
 本店所在地 東京都港区六本木七丁目 15 番 14 号
 ホームページ URL <http://www.oriconge.jp>
 問合せ先 取締役管理本部長 古川 善 健
 T E L (03) 3405-5252

1. 当企業集団の連結業績

(1) 平成 14 年 3 月期第 3 四半期 (平成 13 年 4 月 1 日 ~ 平成 13 年 12 月 31 日) の連結業績

(単位: 千円、%)

	14 年 3 月期第 3 四半期 (当四半期累計)	前 年 同期比	13 年 3 月期第 3 四半期 (前年同四半期累計)	(参考) 前連結会計年度 (通期)
売 上 高	2,424,141	-	-	683,011
売上総利益	1,045,033	-	-	389,803
営 業 利 益	318,602	-	-	137,809
経 常 利 益	312,543	-	-	122,756

(注) 1. 当社は、平成 13 年 3 月期第 3 四半期において連結財務諸表を作成していないため、前年同四半期及び前年同期比については記載しておりません。

2. 当四半期に係る数値については公認会計士又は監査法人の監査を受けておりません。

3. 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

(2) 部門別の売上高内訳

(単位：千円、%)

	14年3月期第3四半期 (当四半期累計)		前年 同期比	13年3月期第3四半期 (前年同四半期累計)		(参考) 前連結会計年度 (通期)	
	金額	構成比		金額	構成比	金額	構成比
データベース事業	216,840	8.9	-	-	-	278,129	40.7
コンテンツ事業	1,219,232	50.3	-	-	-	349,427	51.2
メディア事業	988,068	40.8	-	-	-	55,455	8.1
合計	2,424,141	100.0	-	-	-	683,011	100.0

(注) 1. 当社は、平成13年3月期第3四半期において連結財務諸表を作成していないため、前年同四半期及び前年同期比については記載しておりません。

2. 当四半期に係る数値については公認会計士又は監査法人の監査を受けておりません。

3. 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

(3) 主な資産・負債の変動について

(単位：千円)

項目	14年3月期第3四半期	増減額	前連結会計年度末
(資産)			
1. 現金及び預金	527,592	175,281	352,310
2. 受取手形及び売掛金	1,042,657	772,720	269,936
3. 有価証券	41,798	839,234	881,033
4. 短期貸付金	315,556	315,556	-
5. 投資有価証券	296,291	305,201	601,492
6. 繰延税金資産(投資)	437,792	436,253	1,538
(負債)			
1. 支払手形及び買掛金	469,637	377,686	91,951
2. 短期借入金	742,520	642,520	100,000
3. 未払金	404,620	329,177	75,442
4. 長期借入金	232,230	232,230	-

(注) 1. 項目ごとの変動額が総資産額の5.0%を超えるものを記載いたしております。

2. 当四半期に係る数値については公認会計士又は監査法人の監査を受けておりません。

3. 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

2. 業績の概況(自 平成 13 年 4 月 1 日 至 平成 13 年 12 月 31 日)

(1) 連結業績の概況

当四半期における日本経済は、有力企業の赤字転落が相次ぎ、大型倒産が新聞紙上を賑わす中で、完全失業率が 5.5%に達し、有効求人倍率が平成 13 年 8 月から 5 ヶ月連続悪化するなど、景況は依然として力強さがみられず、デフレの長期化も加わり、厳しい状況で推移しました。

このような状況の中で、平成 13 年 12 月末の日本国内のインターネット接続可能な携帯電話加入者数は約 4,849 万人(前年比 81%増加)と推計されるなど、個人の生活およびビジネスの分野においても必要不可欠の情報伝達手段として、今後もインターネット人口は増加し、EC(電子商取引)市場も更なる成長を遂げるものと思われま

す。当社グループは、このような事業環境の拡大をビジネスチャンスとして対応し、詳細は「事業の種類別セグメント状況」に後述しますが、設備・人事面での増強を図り、平成 13 年 7 月にはソフトの人気を数値化した独自のヒットチャートビジネスを展開する(株)オリコン(以下「オリコン」という。)を子会社とし、シナジー効果による多角化を図り、今後の音楽を中心としたエンタテインメント事業のグローバル化の推進に弾みを付けつつあります。

当期より実施しております連結第 3 四半期決算では、本年 7 月から連結対象となったオリコンの連結対象期間(6 ヶ月間)の業績好調も寄与し、連結売上高は 2,424,141 千円、同売上総利益は 1,045,033 千円、同営業利益は 318,602 千円および同経常利益は 312,543 千円となりました。

(2) 平成 13 年第 3 四半期の連結売上高

当連結第 3 四半期累計の事業の種類別セグメント状況は次のとおりであります。

データベース事業

データベース事業部門はすべてオリコン・グローバルエンタテインメント(株)(以下「当社」という。)が担当しておりますが、EC市場の拡大を背景に、楽曲データベースの必要性が高まる中で、検索項目の多様化などデータベースのクオリティアップを図り、EC事業者に対する利便性の向上に注力いたしました。

この結果、データベース事業部門の当連結第 3 四半期累計の売上高は 216,840 千円、売上高構成比は 8.9%となりました。

コンテンツ事業

当社では、各移動体通信キャリアのモバイルインターネットサービス向けに、総合音楽情報サイト「ORICON HITNEXT」及び「ORICON CLUBBER」の2つのコンテンツを提供しております。提供コンテンツの充実注に注力したことに加え、音楽業界におけるオリコン・ブランドを活用したTVコマーシャルをはじめとした積極的な広告宣伝活動が効を奏し、コンテンツの有料会員数は堅調に増加しております。

オリコンにおきましては、独自のヒットチャートデータを基にした資料提供の内容充実に注力いたしました。

この結果、オリコンの連結対象期間が6 ヶ月間とフルに寄与しておりませんが、コンテンツ事業部門の当連結第 3 四半期累計売上高は 1,219,232 千円、売上高構成比は 50.3%となりました。

メディア事業

オリコン発行の音楽業界向け週刊誌「オリジナル コンフィデンス」および一般向けアーティスト週刊誌「weekly oricon」の更なる内容充実を図り、販売および広告売上に注力するとともに、人気アーティスト Gackt の写真集を発行しました。

(株)ドリームスピナーズにおきましては、国内外におけるDVDなどのディスク受託拡大に注力いたしました。

この結果、オリコンの連結対象期間が6ヶ月間とフルに寄与しておりませんが、メディア事業部門の当連結第3四半期累計売上高は988,066千円、売上高構成比は40.8%となりました。

(3) 売上原価および売上総利益

当社グループの売上原価の主なものは労務費およびメディア事業部門における週刊誌発行に係る外注制作費などの固定費の他、コンテンツ事業部門における支払手数料(コンテンツ制作に係る音源制作費・各携帯端末キャリアの会費回収代行手数料・社団法人日本音楽著作権協会(JASRAC)への著作権使用料)などの変動費であります。グループ従業員増員に伴う労務費増加およびコンテンツ有料会員増員に伴う支払手数料増加を吸収し、当連結第3四半期累計の売上原価は1,379,108千円、売上総利益は1,045,033千円、売上高総利益率は43.1%となりました。

(4) 販売費及び一般管理費

当社グループの販売費及び一般管理費の主なものは、人件費および広告宣伝費であります。業容拡大に伴う増員からなる人件費増加に、今後の布石も兼ねてTVコマーシャルをスポット的に打つなどの積極的なPR活動から大幅な広告宣伝費増加となりましたが、それを吸収し、当連結第3四半期累計の販売費及び一般管理費は726,430千円、売上高販売管理費比率は30.0%となりました。

(5) 営業利益、経常利益

売上高の増加から前述の如く、売上原価および販売費及び管理費の増加を吸収し、当連結第3四半期累計の営業利益は318,430千円、売上高営業利益率は13.1%となりました。

また、営業外費用として平成13年6月に実施した株式分割に伴う株式関連費計上などもあり、第3四半期累計の経常利益は312,543千円、売上高経常利益率は12.9%となりました。

(6) 主な資産・負債の変動について

資 産

現金および預金が前期末352,310千円から第3四半期末527,592千円へと増加しておりますのは、主として平成13年7月のオリコン子会社化に伴い連結ベースのボリュームが膨らんだことによるものであります。

受取手形及び売掛金が前期末269,936千円から第3四半期末1,042,657千円へと増加しておりますのは、主として当社の売上高急増およびオリコンを子会社化したことに伴う売掛金の増加によるものであります。

有価証券が前期末881,033千円から第3四半期末41,798千円へと減少しておりますのは、主として一時的な余資運用をしていた中期国債ファンドなどの要求払い預金に近い有価証券を解約したものであります。

短期貸付金が前期末未計上から第3四半期末315,556千円へと増加しておりますのは、当社グループ内の金融収支改善を目的として、当社の借入金をオリコンへ貸付けているものであります。

投資有価証券が前期末601,492千円から第3四半期末296,291千円へと減少しておりますのは、主として円建て外債の償還および株式投資信託の解約によるものであります。

繰延税金資産が前期末1,538千円から第3四半期末437,792千円へと増加しておりますのは、主としてオリコンの繰越欠損金および投資有価証券評価損に係るものであります。

負 債

支払手形及び買掛金が前期末91,951千円から第3四半期末469,637千円へと増加しておりますのは、主として当社の売上高急増により諸経費も増えたことから買掛金も増加、およびオリコンを子会社化したことに伴う支払手形増加によるものであります。

短期借入金が前期末100,000千円から第3四半期末742,520千円、および前期末未計上の長期借入金が第3四半期末232,230千円へと増加しておりますのは、主としてオリコンを子会社化したことにより、オリコンの借入金を当社が一括調達しているためであります。

未払金が前期末75,442千円から第3四半期末404,620千円へと増加しておりますのは、主として当社の売上高急増およびオリコンを子会社化したことに伴う経費増加によるものであります。

3. 当期の見通しについて

当社は業績予想を開示しておりません。

4. その他

(1) 相続について

平成 13 年 1 月に死去しましたオリコン元代表取締役の小池聰行（当社代表取締役小池恒の実父）の相続手続きは、現在完了しております。

(2) 株式会社ドリームスピナーズ役員の変更について

平成 13 年 12 月 18 日開催の(株)ドリームスピナーズ臨時株主総会におきまして、同社代表取締役小林隆は辞任し、新たな代表取締役として当社取締役副社長河田寛が就任いたしました。

今後は、当社経営陣が経営を掌握し、同社のアジア各国を中心としたグローバル展開を推進する所存であります。

(3) 平成 14 年 3 月期第 3 四半期（平成 13 年 4 月 1 日～平成 13 年 12 月 31 日）の単体の業績

（単位：千円、％）

	14 年 3 月期第 3 四半期 （当四半期）	前 年 同期比	13 年 3 月期第 3 四半期 （前年同四半期）	（参考） 前期（通期）
売 上 高	1,324,262	348.6	379,899	627,556
売上総利益	615,833	258.0	238,685	374,499
営 業 利 益	233,929	303.6	77,061	137,731
経 常 利 益	238,760	400.2	59,656	122,402

（注）1．当四半期及び前年同四半期に係る数値については公認会計士又は監査法人の監査を受けておりません。

2．記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

2002.2.1 15:00

弊社は投資家の皆様に対するスピーディな情報公開を目的として、ホームページ上にニュースリリースを掲載しております。

なお、本ニュースリリースには証券取引法第166条に定められた重要事実に当たる情報が含まれる可能性があります。重要事実を含むニュースリリースをご覧になられた方が、その重要事実が証券取引法施行令の規定に従い公開された後12時間以内に、オリコン・グローバルエンタテインメントの株式の売買等を行った場合、いわゆるインサイダー取引規制違反として、証券取引法の規定に接触するおそれがありますのでご注意ください。